

重力波望遠鏡KAGRAの 低温動作に向けた主干涉計開発

道村唯太

東京大学 大学院理学系研究科 物理学専攻

麻生洋一、宗宮健太郎、宮川治、苔山圭以子、廣瀬榮一、

阿久津智忠、榎本雄太郎、小森健太郎、有富尚紀、

下田智文、新井宏二、山本博章

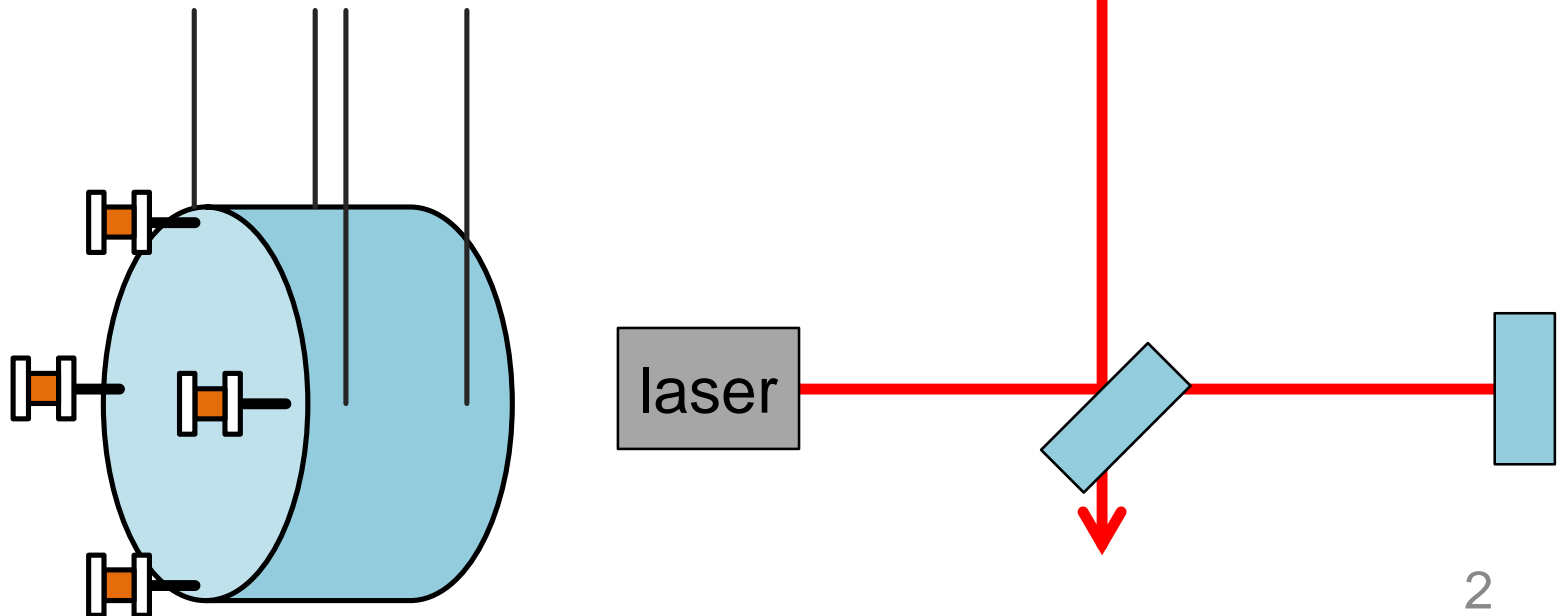
国立天文台、東京工業大学、東京大学宇宙線研究所、

東京大学、カリフォルニア工科大学

Thanks to: 正田亜八香、奥富弘基、宮本昂拓、田中宏樹

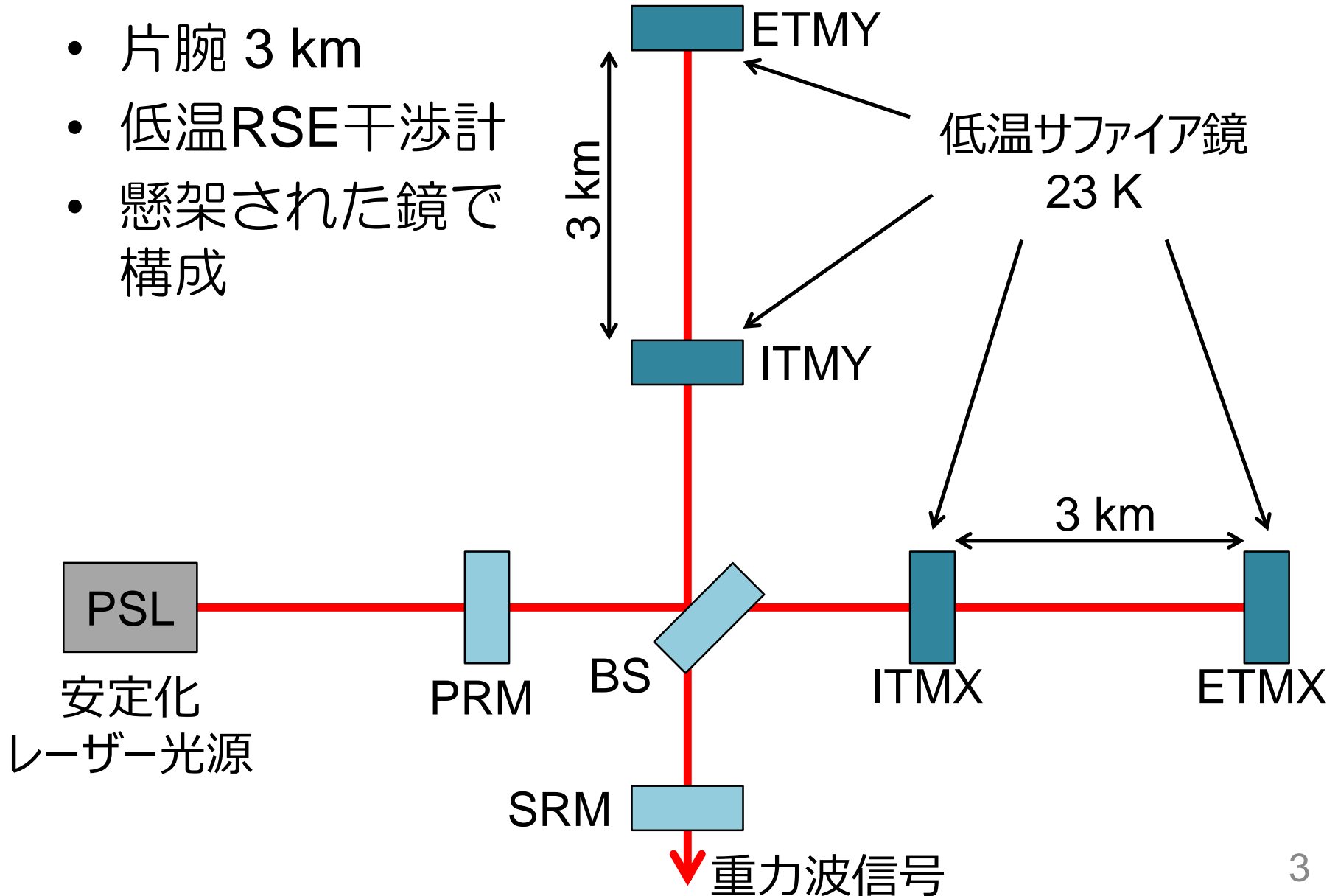
概要

- KAGRAはレーザー干渉計型重力波望遠鏡
- 高感度で動作させるためには鏡間の距離の高精度な制御が必要
- そのために必要な鏡のアクチュエータを設計した
アクチュエータ雑音、磁場雑音
制御のために十分なレンジ



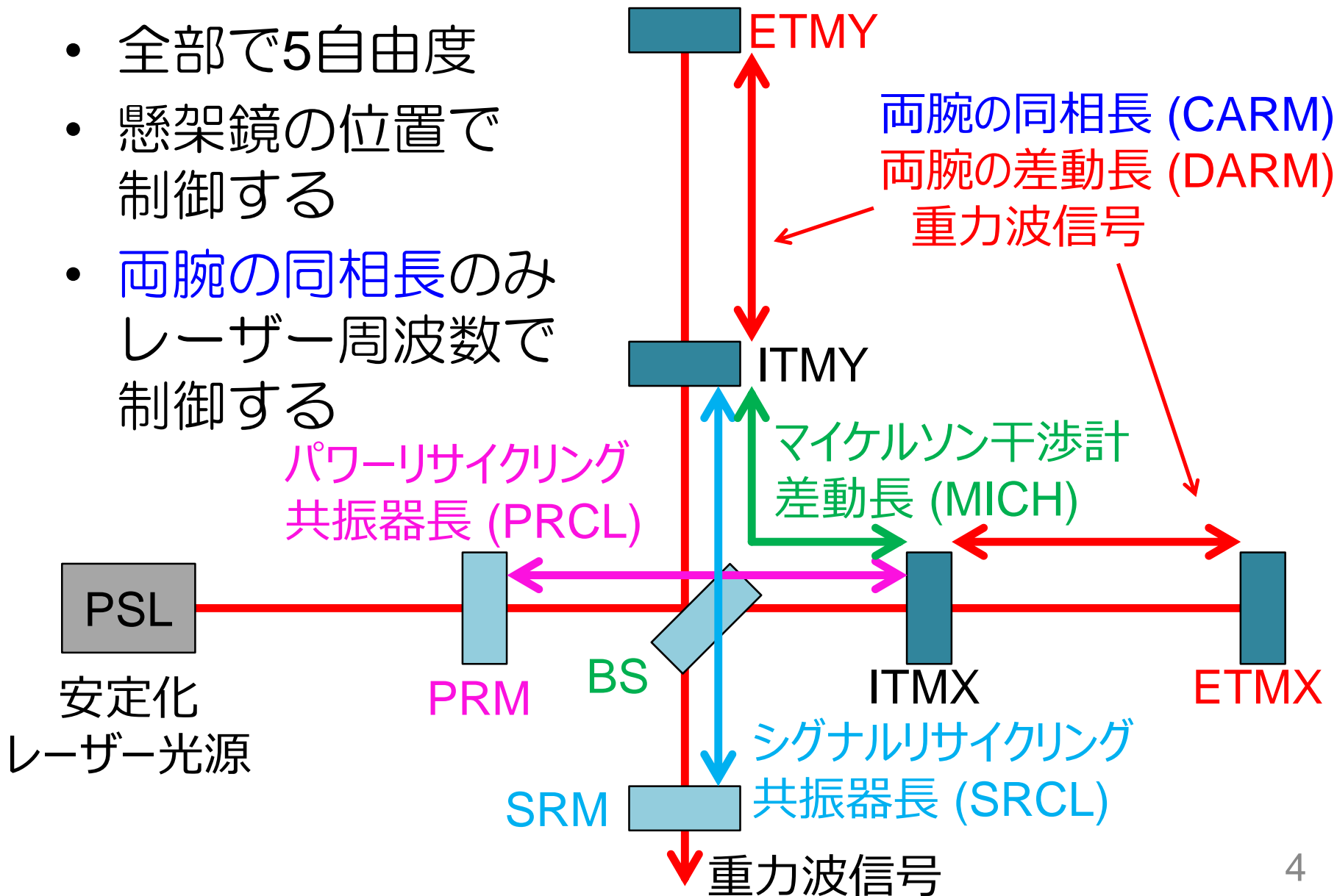
KAGRAの主干渉計構成

- 片腕 3 km
- 低温RSE干渉計
- 懸架された鏡で構成



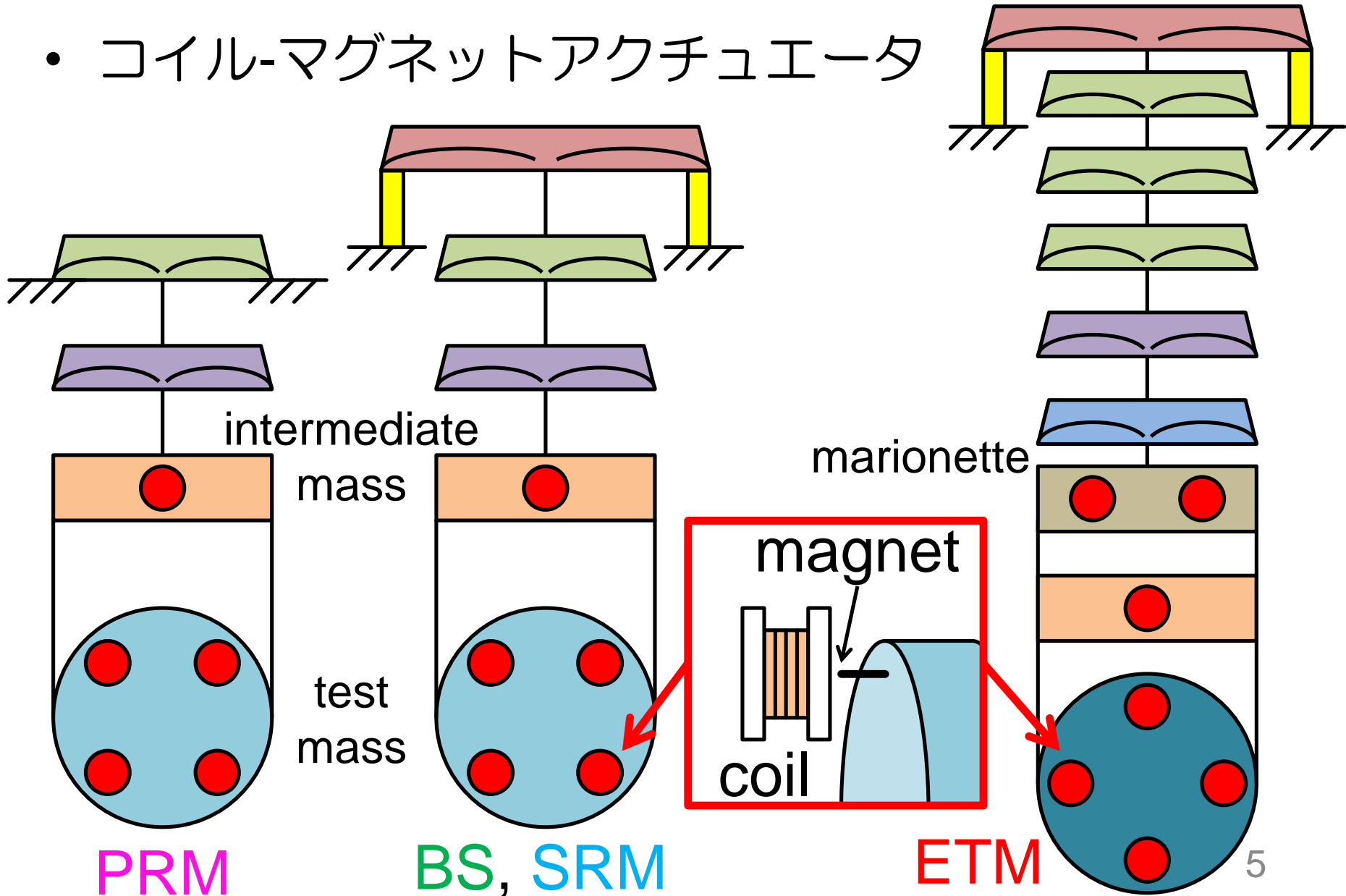
長さ制御

- 全部で5自由度
- 懸架鏡の位置で制御する
- 両腕の同相長のみ
レーザー周波数で制御する



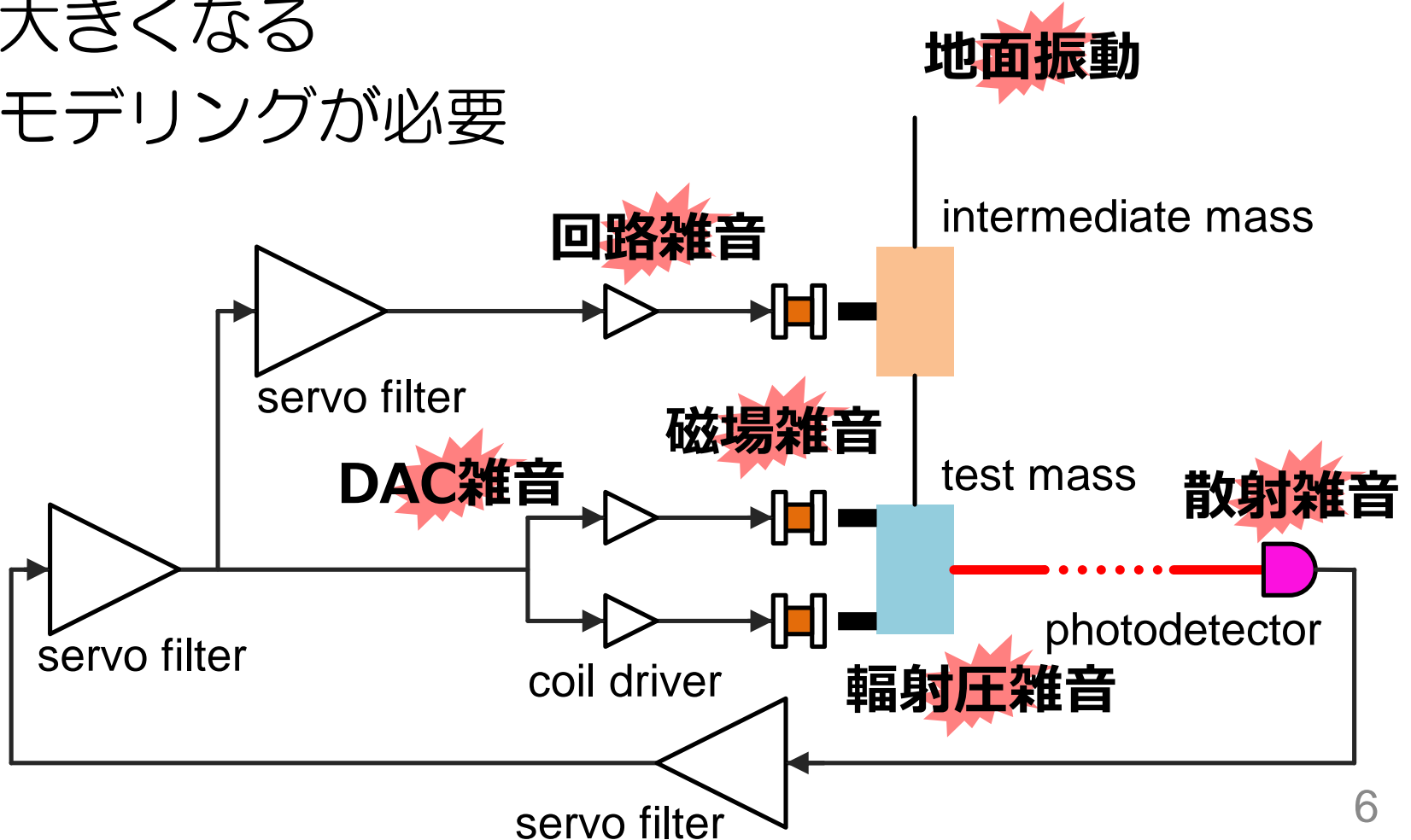
懸架系のアクチュエータ

- コイル-マグネットアクチュエータ



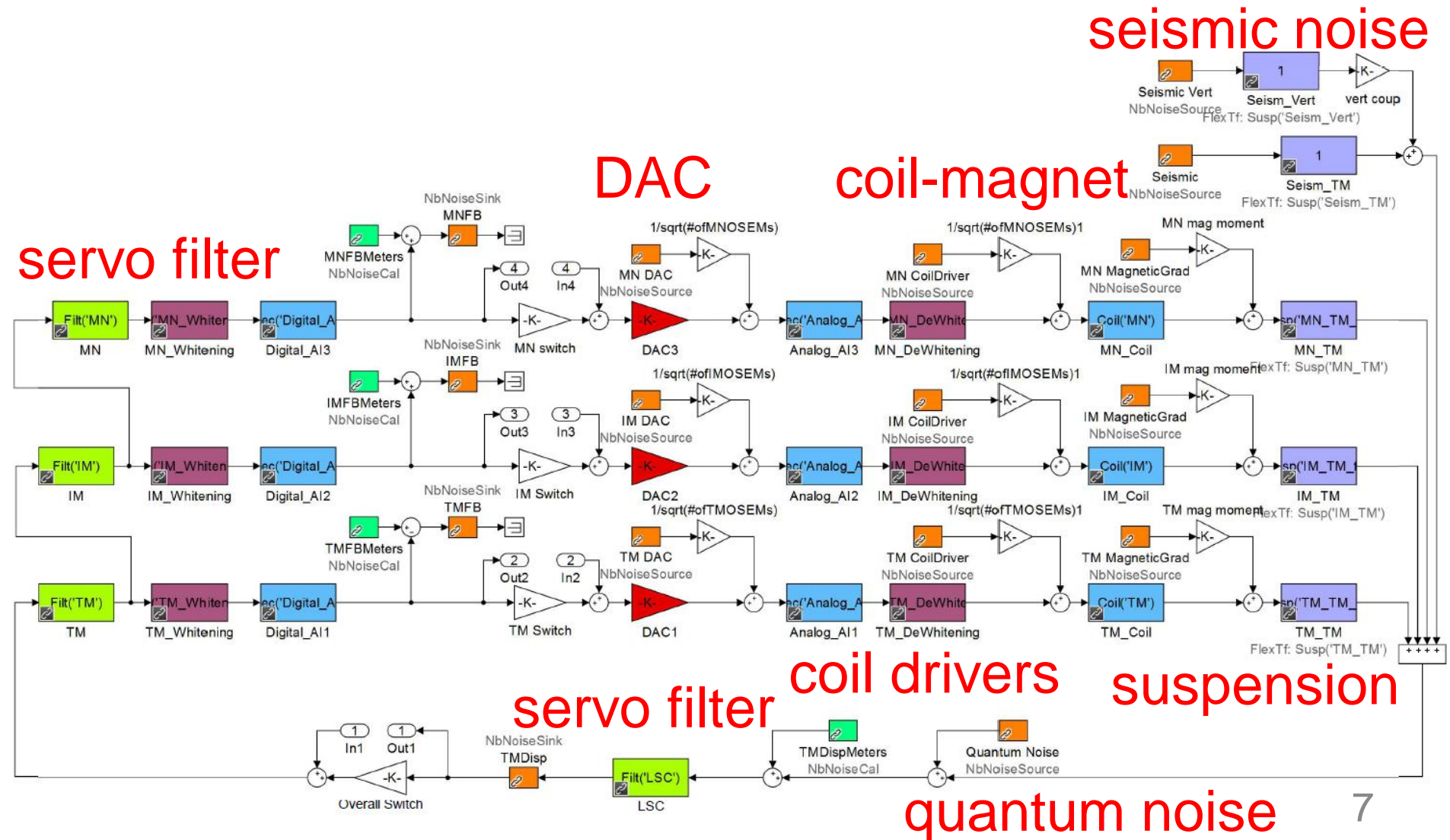
アクチュエータのレンジと雑音

- さまざまな雑音を抑えるだけのレンジが必要
- 強すぎるとアクチュエータ雑音、磁場雑音が大きくなる
- モデリングが必要



モデリング

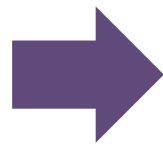
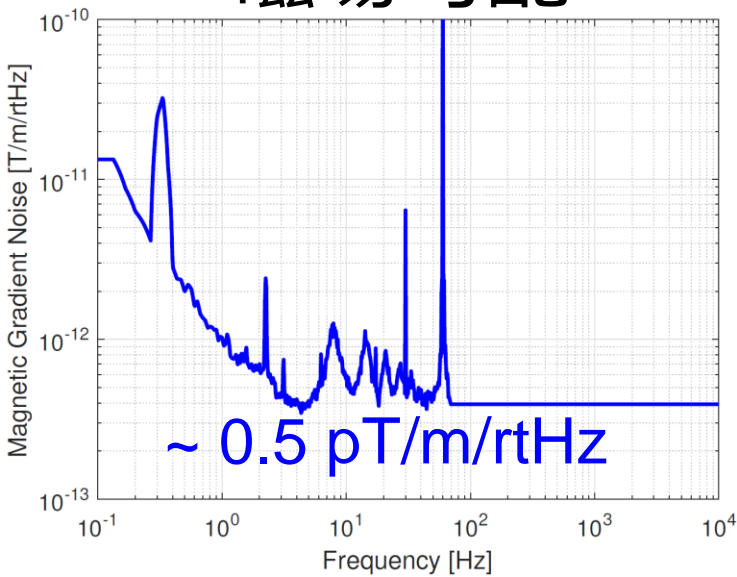
- Simulink NoiseBudget (by Chris Wipf)でモデル化



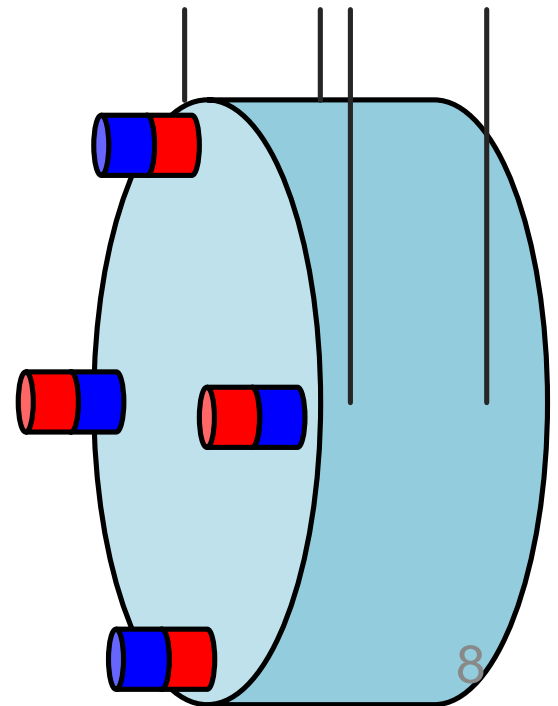
磁場雑音

- 磁場勾配と磁石のばらつきによる磁気モーメントのカップリングが一番効く
- 今回はトンネル内で測定した磁場雑音を使用
真空槽内での磁場雑音は測定中
- 磁場雑音を1 mで割って磁場勾配雑音にした

磁場勾配



残留磁気
モーメント



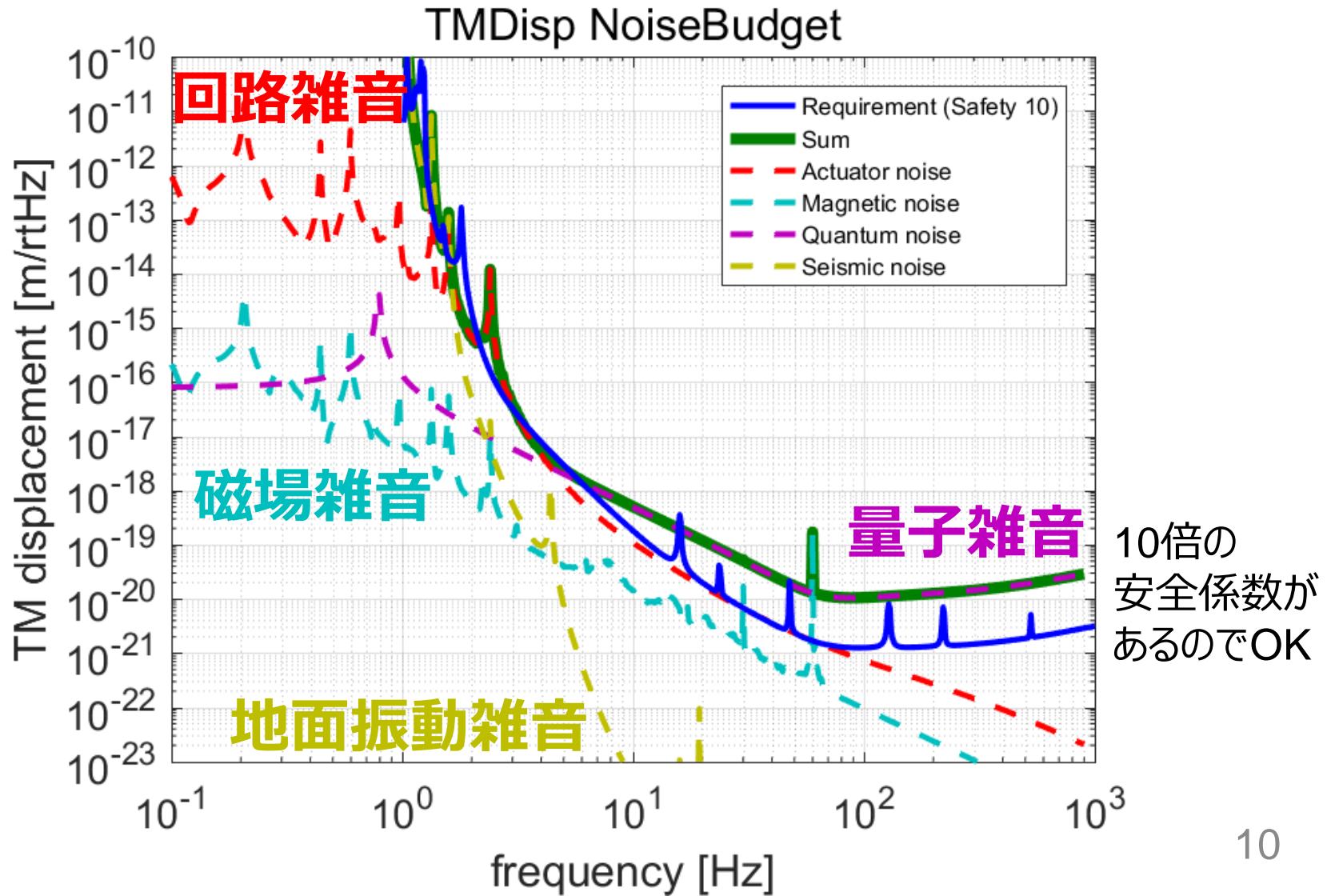
各鏡のアクチュエータ

- コイルの巻数と磁石の大きさ(mm)とコイルドライバの出力抵抗(小さいほうが強い)

	PRM	SRM	BS	ETM
Marionette	なし	なし	なし	585巻 φ2 x L 2 1.4 kΩ
Intermediate mass	600巻 φ10 x L 10 80 Ω	600巻 φ10 x L 10 7.8 kΩ	600巻 φ10 x L 10 7.8 kΩ	585巻 φ2 x L 2 1.4 kΩ
Test mass	600巻 φ6 x L 3 80 Ω	600巻 φ2 x L 5 7.8 kΩ	600巻 φ2 x L 3 7.8 kΩ	88巻 φ2 x L 2 7.8 kΩ

雑音 (ETM)

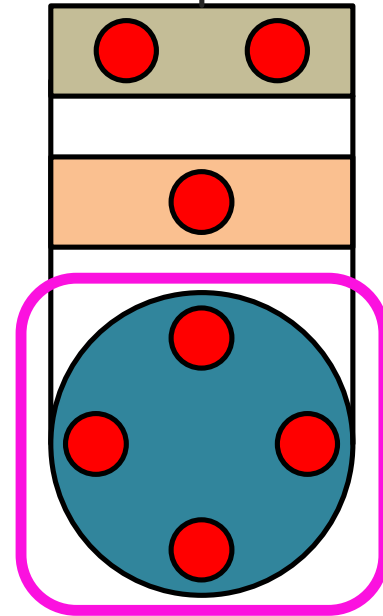
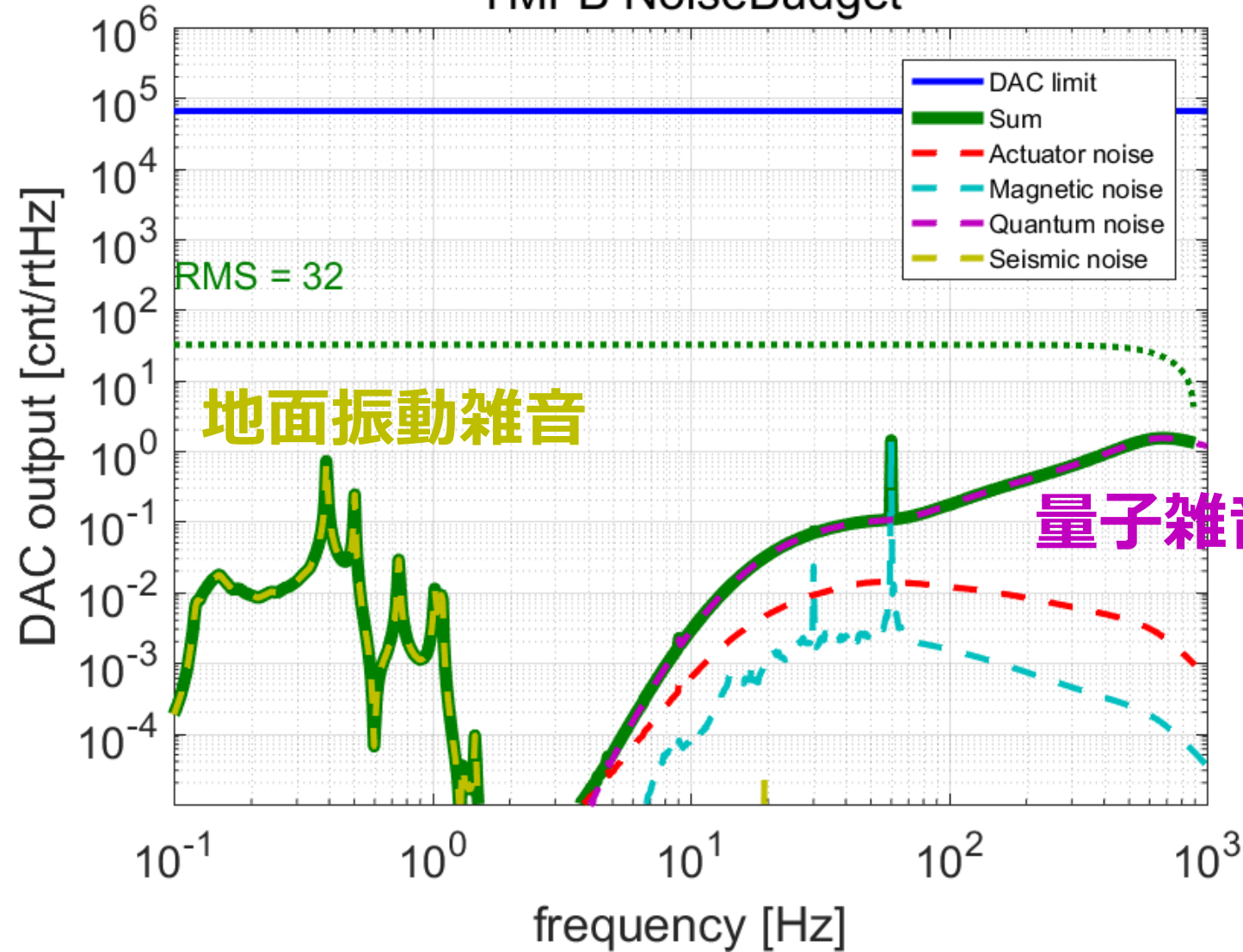
- 変位雑音要求値を満たす



レンジ (ETM)

- TMは大丈夫

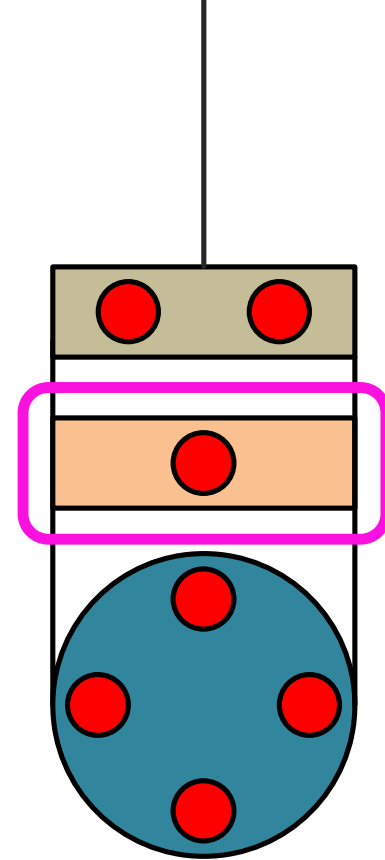
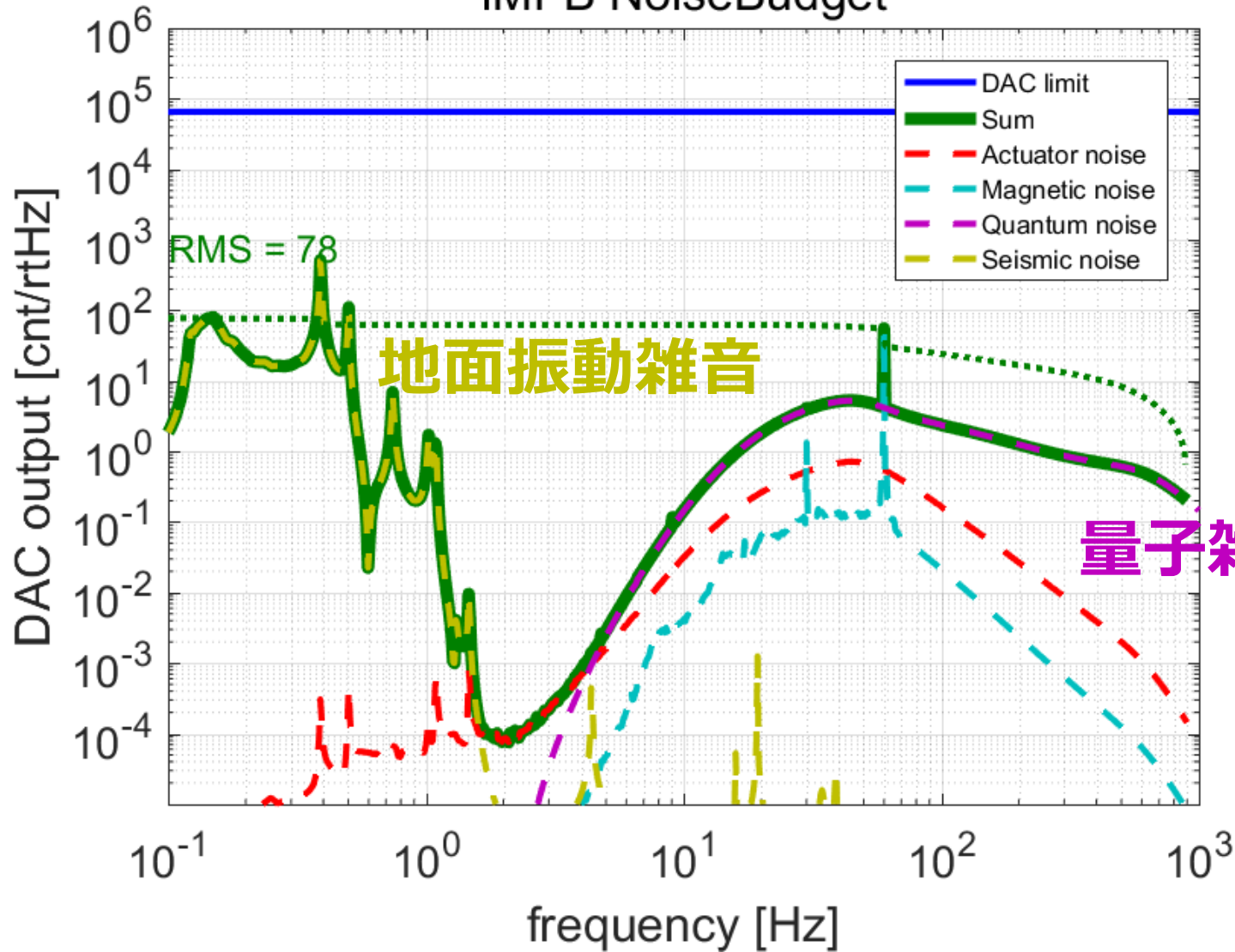
TMFB NoiseBudget



レンジ (ETM)

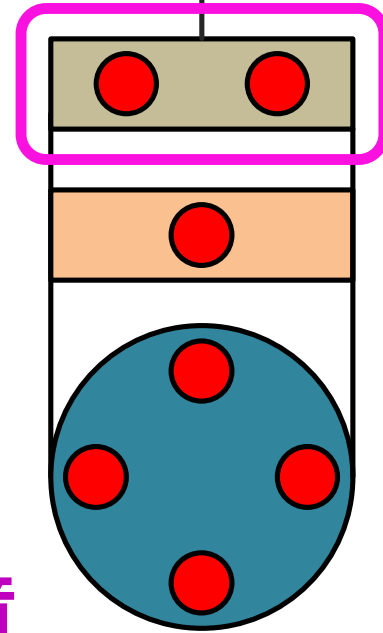
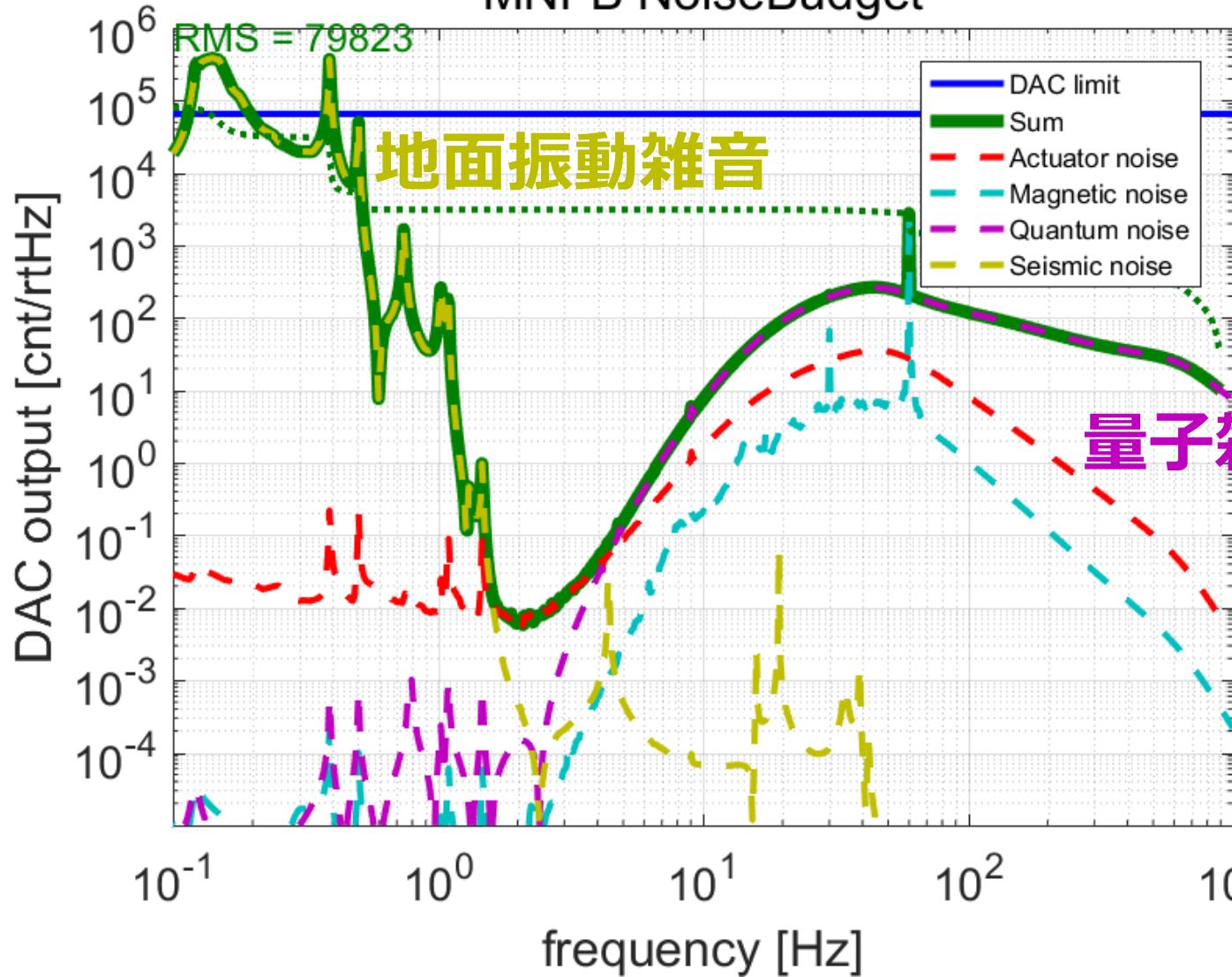
- IMも大丈夫

IMFEB NoiseBudget



レンジ (ETM)

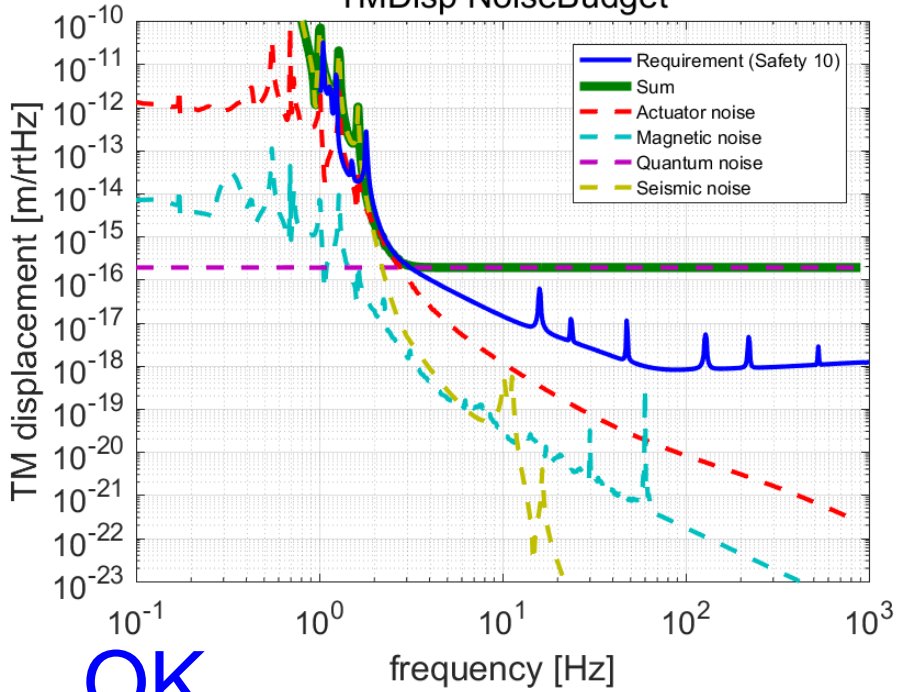
- MNはレンジを超えてしまう
MNFB NoiseBudget



より大きな磁石
または
さらに上段への
フィードバックが
必要

BSの結果

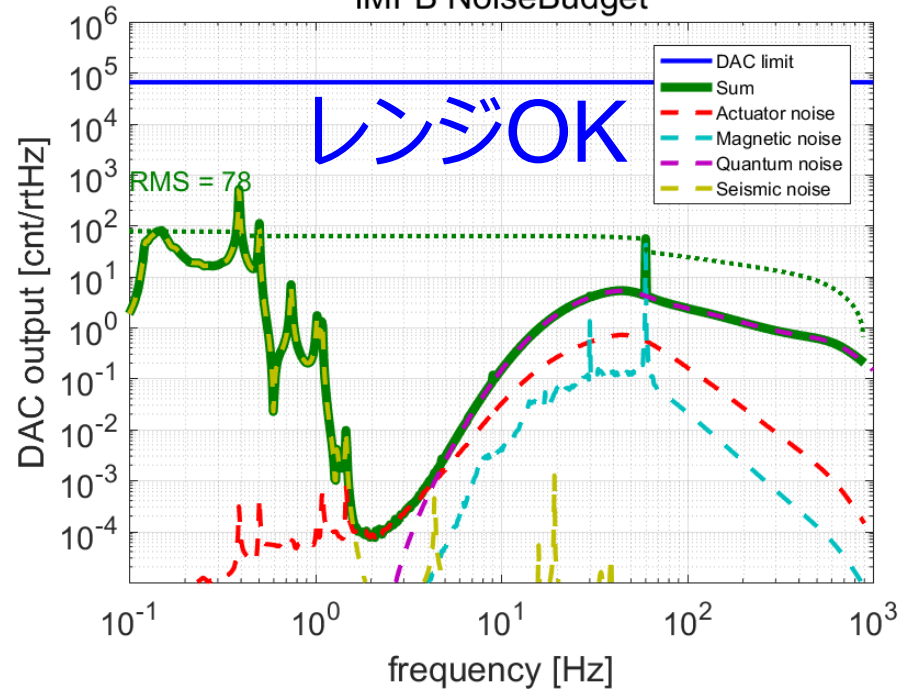
TMDisp NoiseBudget



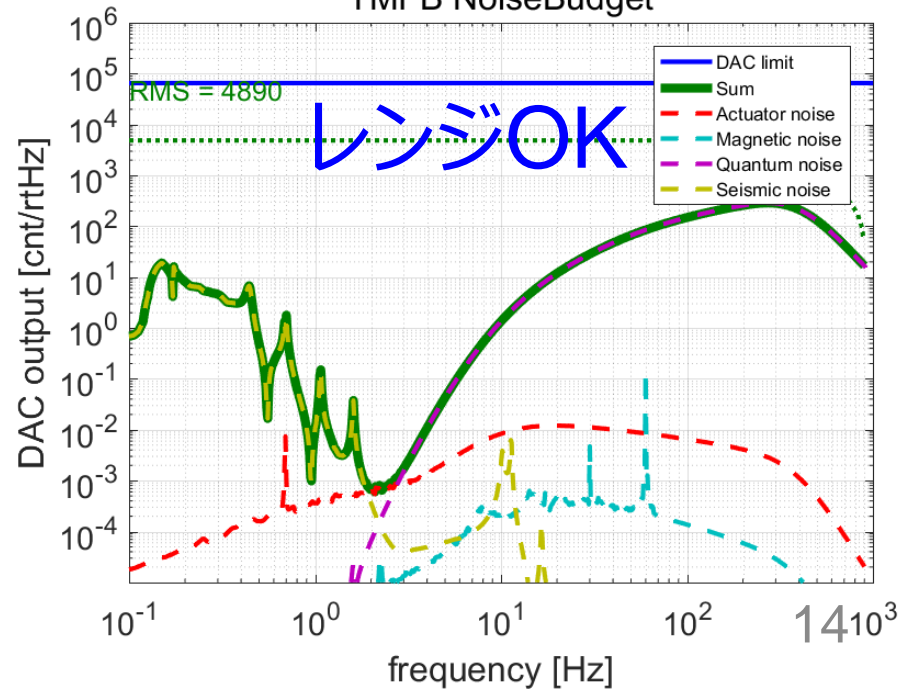
OK

(feed forwardは必要)

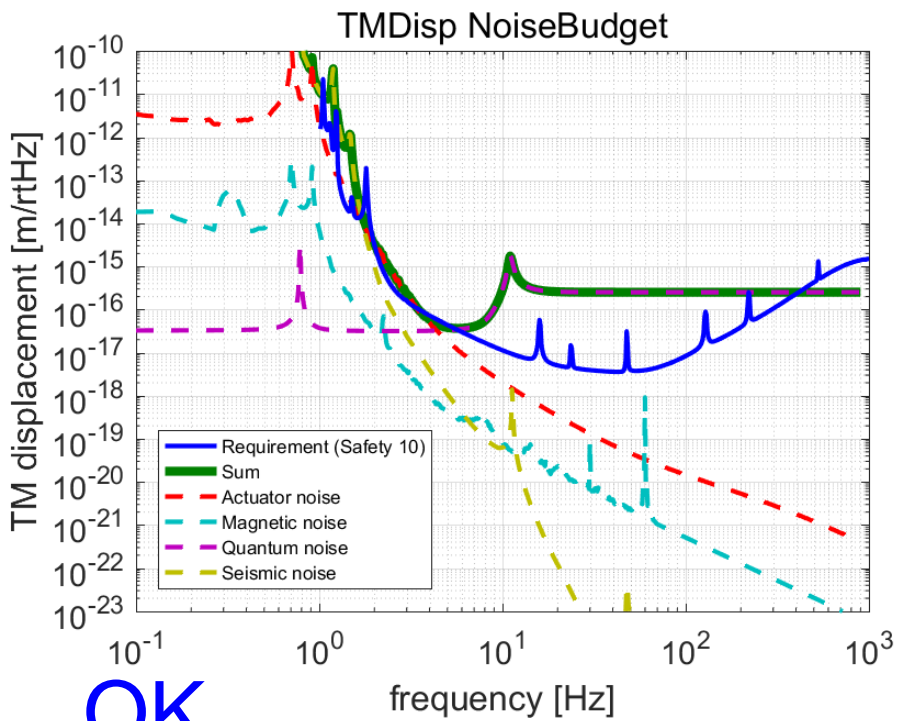
IMFB NoiseBudget



TMFB NoiseBudget

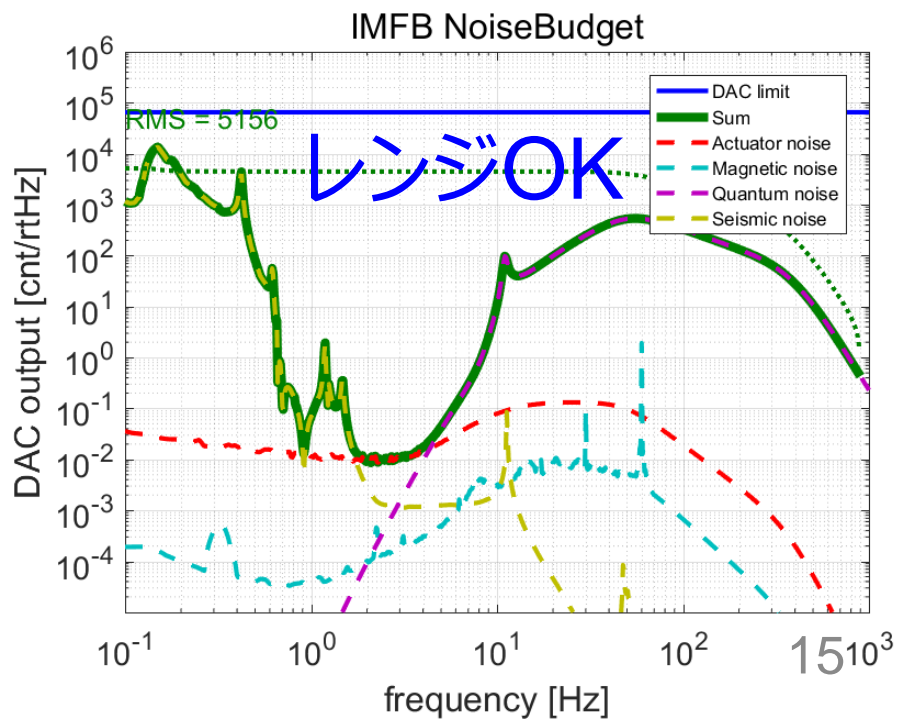
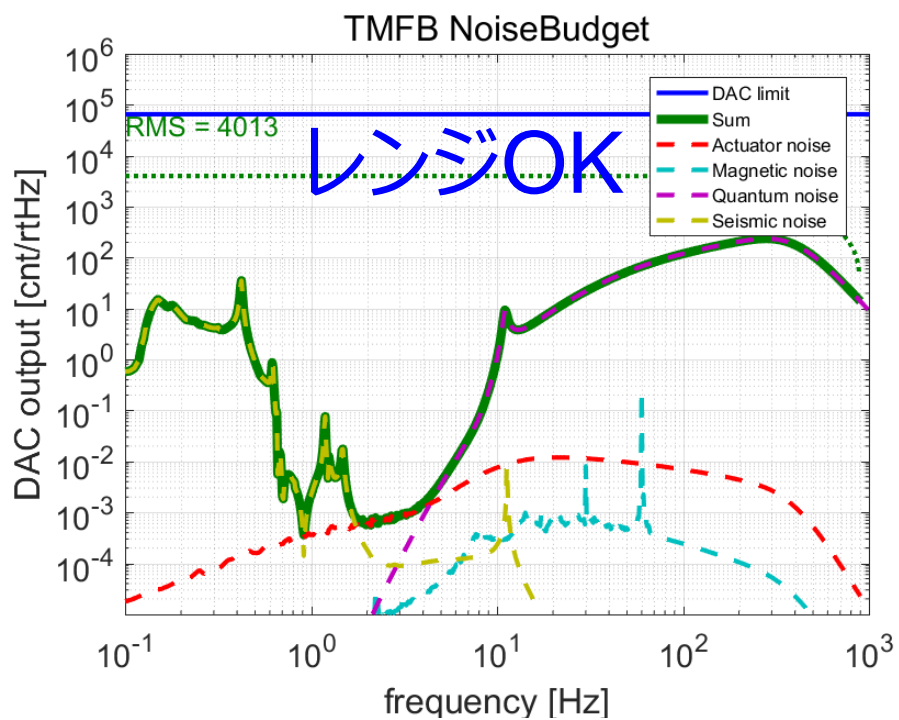


SRMの結果

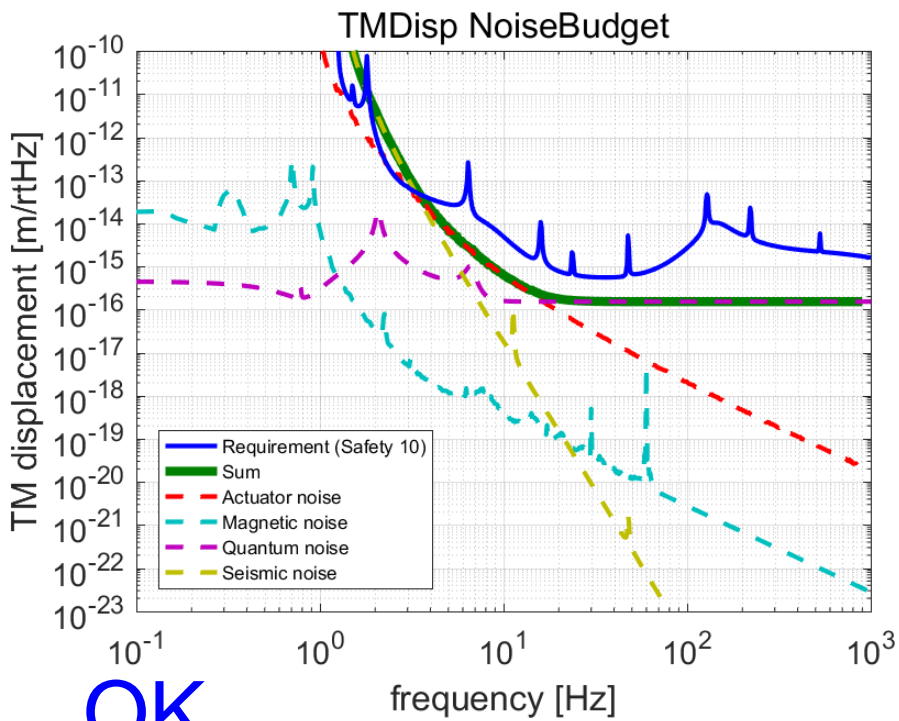


OK

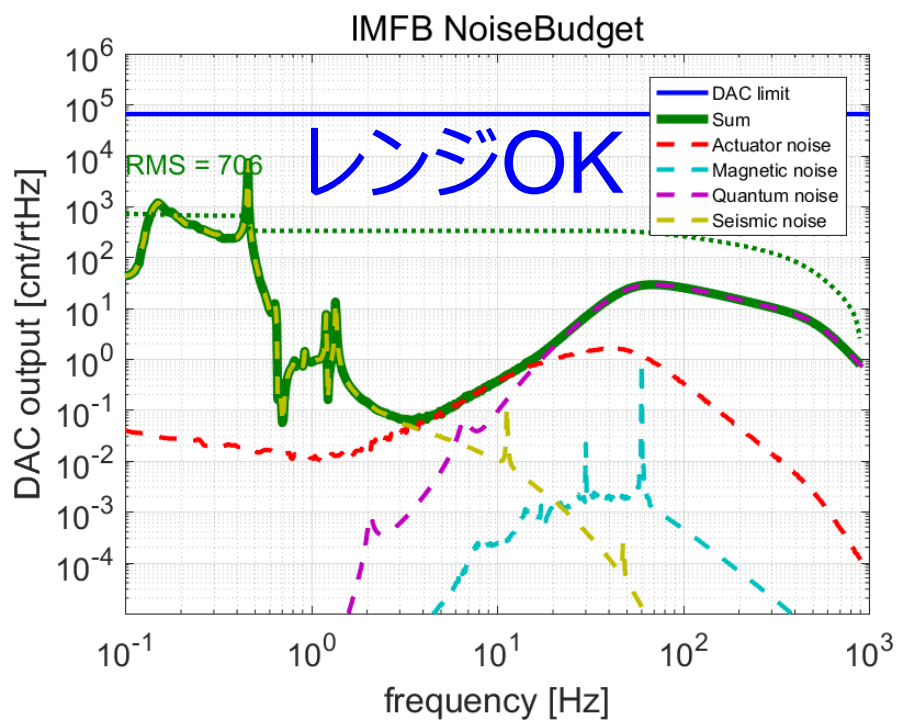
(feed forwardは必要)



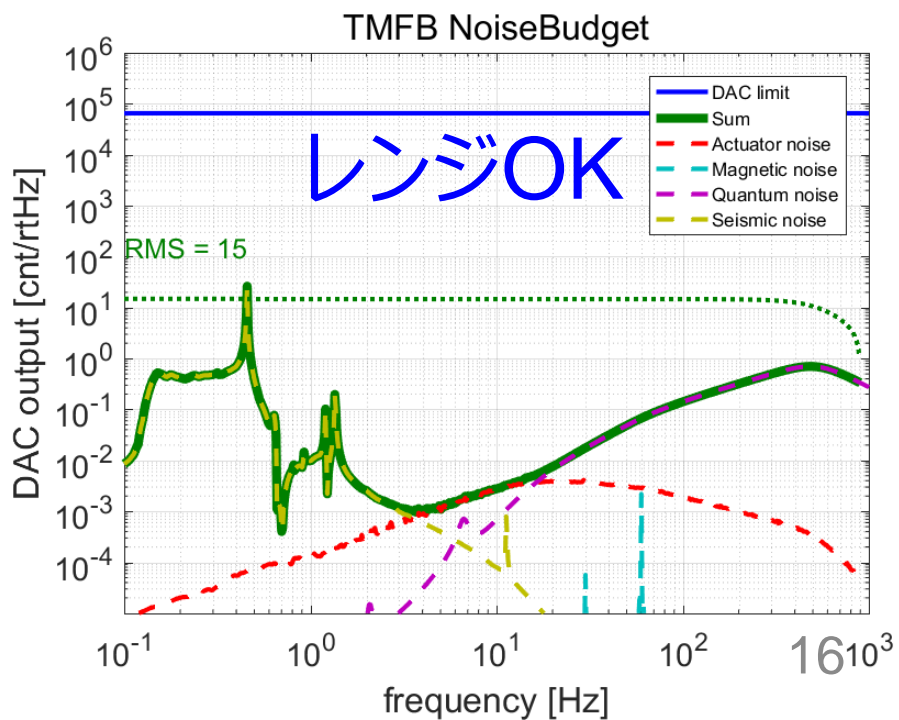
PRMの結果



OK



レンジOK



レンジOK

まとめ

- KAGRA主干涉計の長さ制御モデルを作った
- アクチュエータ雑音、磁場雑音
が変位雑音要求値を満たすか、
レンジは十分かを確認
- 常温鏡についてはOK
- 低温鏡については制御系の改良
が必要

Marionetteにより大きい磁石
または
さらに上段へのフィードバック

